

科目名		担当教員名	学期
国際会計 International Accounting		小澤 元秀	後期
目的	IFRS の各会計基準の詳細な規定を形式的に学習するのではなく、IFRS の会計基準としての特徴を基礎から十分理解することを目標とする。		
概要	<p>金融庁の企業会計審議会から「国際会計基準（IFRS）への対応のあり方に関する当面の方針」（2013年）が公表されて以来、我が国のIFRSの適用の流れは大きく前進しており、現在IFRS適用会社は150社に達しようとしている。</p> <p>本講義では、長年大手監査法人のパートナーを経験してきた講師が、会計基準適用の現場（実務）で経験してきた諸問題について具体的に解説することで、国際会計基準の基本的な考え方について深い理解ができるように講義を進める。</p> <p>また事前に知らされるテーマを予習することにより講義中に講師に対して疑問点を質問することができる。</p>		
到達目標	<p>企業の経済活動及び証券市場のグローバル化が進む現在、投資家からは標準的な会計ルール策定のニーズが高まっている。</p> <p>日本の会計実務は、IFRSの導入によりどのように変貌するのか、それは企業経営にいかなる影響を及ぼすのかを検討することを通じて、会計基準の国際化の意味を正しく理解することを到達目標としている。</p>		
成績評価の基準と方法	成績の評価は、講義への出席率、講義中のQ&Aへの参加・学習態度、及び年度末に実施する小論文の内容、これらを総合的に評価して決定する。		
履修条件	簿記3級程度の会計の基礎知識		
<b>授業計画</b>			
第1週	オリエンテーション（IFRSの基礎）		
第2週	<p>「IFRSにおける概念フレームワーク」</p> <p>なぜ、概念フレームワークが必要なのかという問題を中心に考え、国際会計基準の基礎にある概念フレームワークを理解する。</p>		
第3週	<p>「IFRSにおける財務諸表」</p> <p>日本の財務諸表の体系と、財政状態計算書、包括利益計算書、持分変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針の要約から構成されるIFRSの財務諸表の体系を比較し理解する。</p>		
第4週	<p>「顧客との契約から生ずる収益」</p> <p>わが国の収益認識に関する会計基準と、IAS第18号「収益」から改訂されたIFRS第15号「顧客との契約から生ずる収益」を理解する。</p>		
第5週	<p>「棚卸資産」</p> <p>棚卸資産に関する会計基準として、IAS第2号「棚卸資産」と我が国の企業会計基準第9号「棚卸資産の評価に関する会計基準」を比較検討する。</p>		

第 6 週	<p>「有形固定資産」</p> <p>有形固定資産に関して、特に影響が大きいと想定される減価償却費計算を中心に、個別財務諸表に IFRS が適用された場合の会計・税務（法人税確定申告書）への影響及び検討課題について考察する。</p>
第 7 週	<p>「無形固定資産」</p> <p>コンピュータのソフトウェア、特許、著作権、映画フィルム、顧客名簿などの無形固定資産について、IAS 第 38 号の内容を理解する。</p>
第 8 週	<p>「資産の減損」</p> <p>IAS36 号は資産が減損している可能性を示す兆候がある場合に減損テストを要求しているが、有形固定資産および無形固定資産の減損会計に関する IFRS の取り扱いを取り上げる。</p>
第 9 週	<p>「金融商品」</p> <p>2014 年に改訂された金融商品の会計基準に関連して、IFRS 第 9 号、IAS 第 32 号、IFRS 第 7 号等中心に理解する。</p>
第 10 週	<p>「従業員給付」</p> <p>IAS 第 19 号「従業員給付」は、従業員給付全般に関する会計基準であり、有給休暇等の短期従業員給付、長期勤続休暇のような長期従業員給付、解雇一時金などの解雇給付、および退職後給付制度を含んでいるが、主に退職後給付制度について検討する。</p>
第 11 週	<p>「法人税」</p> <p>IAS 第 12 号「法人所得税」における当期税金負債および繰延税金資産・負債の会計処理を検討する。</p>
第 12 週	<p>「引当金及び偶発債務」</p> <p>偶発事象及び引当金の会計処理を包括的に取扱った IAS 第 37 号「引当金、偶発負債及び偶発資産」について学習する。</p>
第 13 週	<p>「企業結合」</p> <p>企業結合会計の概要、取得法の会計を理解する。また IFRS 第 3 号の内容の検討とともに、我が国の企業結合会計基準との比較をする。</p>
第 14 週	<p>「リース」</p> <p>「リース」の考え方、及び実務に適用された場合の会計処理および課題を理解するとともに、2016 年改訂の IFRS 第 16 号（新基準）についてその内容と改訂された理由などを検討する。</p>
15 週	<p>「総括」</p> <p>全体のまとめとして、現在の我が国の会計実務（税務を含む）が国際財務報告基準（IFRS）の導入によりどのように変貌しようとしているかについて総括的な理解を確認するとともに、今後の各自の研究課題を明らかにする。</p>

<p>テキスト 参考書等</p>	<p>【テキスト】 特に定めない。 毎回、講義用レジュメを配布する。</p> <p>【参考書】 『新・現代会計入門』伊藤邦男（著） 日本経済新聞出版社</p>
<p>その他 特記事項</p>	